

令和元年度 自己評価書

学校名	和歌山市立和佐小学校
校長氏名	塩谷 通功
作成日	令和2年（2019年）2月10日

1 教育目標

『心身ともに健康で、人間性豊かな実践力のある子どもを育てる』

2 本年度の取組についての評価

	地域とともにある学校	ゆたかな心の育成	確かな学力向上
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子がよく伝わった（保護者85%以上） ・学校運営協議会による学校評価（学校運営等に関する評価書） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなの道徳」「心のとびら」の活用（100%） ・学校アンケート「私は学校がとても楽しい」（児童80%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学調、県到達度等において、全国及び県平均と同等になる ・学校アンケート「学校はよくわかる授業を工夫している」（児童・保護者85%）
重点目標【P】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の教育力の有効活用 2. 学校の情報提供 3. 学校運営協議会との連携・協働 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳・人権教育の充実 2. 生活指導の充実 3. 仲間づくりの推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学力の定着 2. 子供主体の授業の推進 3. 読書活動の推進
取組の状況【D】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域先達との協働連携事業指定により、地域の教育力を積極的に教育活動に活用した。 2. 毎月の学校だより、学年通信、保健便り等の発行やホームページの充実に努めた。 3. 学校運営協議会を通じ、学校運営について協議を行った。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳の教科書や副読本を活用するとともに、教育活動全体を通して、豊かな心を育むことに努めた。 2. いじめなくそうデー（児童アンケート）に取り組み、未然防止、早期発見・早期解決を図った。 3. なかよし集会など縦割り活動を実施し、仲間づくりに取り組んだ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝学タイムや和佐タイムにおいて、個人ファイル（プリント学習）に取り組んだ。 2. 学力定着フォローアップ事業を活用し、若手教員を中心に授業力・指導力の向上に取り組んだ。 3. 図書館を休み時間に開放したり、読み聞かせに取り組んだりした。
取組の成果と課題（評価結果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者アンケート「学校の様子が伝わった」は、69.6%であり、僅かな上昇に留まっている。情報提供については、地域の回覧板に加え、HPなどで子供達の様子を中心に伝えているが、さらに啓発の方法を考える必要がある。 2. 地域先達事業を活用し、子供達が地域を知る機会につなげることができた。 3. 学校運営協議会を通して、学校、地域の課題を共有し協議することができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校アンケート結果において、92.8%の児童が学校が楽しいと答えており、昨年度より上昇しているが、7.2%の児童がそう思わないと回答している。引き続き、いじめアンケートや児童の日々の様子をさらに注意深く見守るとともに、迅速な対応を心がける必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力調査等の結果では、基礎学力や目的や意図に応じて、自分の考えを書くことに課題が見られた。 2. 主体的に自分の考えを持ち、相手に伝える力を育む授業を進める。 3. 学校アンケート「学校はよくわかる授業を工夫している」の項目で、児童81.3%、保護者72.5%が「そう思う」と回答しており、児童は上昇した。全体として、目標をクリアできるような授業改善や啓発が必要である。
改善方法【A】 次年度に向けての	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域とともにある学校をめざし、学校運営協議会の充実に努める。（教職員、保護者、児童、地域） 2. 地域の教育力の掘り起こしを行い、教育活動の充実を図る。 3. 学校の情報公開については、引き続き、HP等情報発信の充実に努めていく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の児童の様子やアンケート等による実態把握に努めるとともに、課題が見られた場合には、引き続き迅速に対応する。 2. 地域の福祉施設との交流など児童が主体的に学ぶ機会とし、児童の心の成長につなげる。 3. 教育活動全体を通じて、児童の道徳性を育むことに努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力向上に係るこれまでの取り組みを精査し、児童の学力向上のために改善を図る。（年度末反省を踏まえて） 2. 若手教員の授業力向上と「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに、授業づくりに取り組む。

3 その他の課題

・平成31年度は、外国語科・外国語活動が導入されるなか、授業時数確保のため、クラブ・委員会活動の時数を縮減したが、児童の主体性を育む点においては、児童会活動等の時間を確保する必要がある。

・地域先達との連携事業により、地域の教育力を有効に活用することで、ふるさと教育の充実につながると考える。

・4月より学習指導要領が完全実施となるなか、若手教員の授業力向上が急務である。経験豊富な教員とともに、OJTの充実に努めていく必要がある。